秩父が浦公園

島原半島は何千年にもわたる自然災害により形成されてきた。1792 年の島原大惨事の際に最も劇的な変化が起きた島原市ほど、これが明白な場所はない。

1791 年の初め、小浜町に近い島原半島の西側は、何度かの地震に苦しんでいた。1792 年初期、地震活動は東に移り、半島中央の山々のまとまり全体はいくつかの場所から噴火する溶岩により目覚め、谷の下方をゆっくりと満たしていた。最終的に、東で何ヶ月も揺れが続き、4,000 年前に形成された眉山(819 メートル)の溶岩ドームが大規模な岩屑なだれで崩壊した。

山の大部分が有明海になだれ込んだために起きた山崩れと津波により地域全体で 1 万 5 千人以上が命を落とした。突然、島原の町は多数の小さな丘で覆われ、眉山の残りの部分が海に散らばった諸島を形成し、土砂で埋まった港は非常に浅くなった。

ここ秩父が浦公園では自然災害によって生じた独自の風景を見ることができる。悲劇をもたらせたとはいえ、自身は予期せぬ恵みももたらせた。新しい大地の割れ目から湧き水が湧き出てきたことや、海の下の複雑な風景が豊かな海の生物の生息地となったことなどである。